



しが てつたろう
志賀 哲太郎 (教育) 故人

慶応元年(1865年)8月28日 生
大正13年(1924年)12月29日 没
(享年 59 歳)

【写真は御遺族提供】

志賀氏は、上益城郡津森村（現・益城町）出身。台湾教育に従事した教育者。明治23年、父の死去により東京法律学院（現・明治大学）を退学して帰郷した。帰郷後、「紫溟会」に入会し、古荘嘉門・佐々友房・安達謙蔵・宮崎滔天らと交流。また九州日日新聞の政治記者として活動し、菊池郡原水尋常小学校教員や大原義塾塾頭を歴任した。

明治29年、日清戦争の講和条約により日本に割譲された台湾に渡り、台中県大甲鎮の大甲公学校で代用教員として赴任した。大甲からの転勤や総督府への絶対服従を避けるため、代用教員になったとされている。

当時の大甲では、教育の重要性が十分に理解されていなかったため、志賀氏は、日曜日に就学適齢期の子どもを回り登校を促した。学校では学用品を購入して提供し、病気の子どもには家庭を訪れて見舞い、学費の補助も行った。これらの活動は、県下一の出席率と高い進学率へとつながり、やがて大甲からは各界の重要な地位に就く人材が多数輩出された。

志賀氏は、大正13年に死去。葬儀は校庭で執り行われ、沿道の住民が線香を立てその死を悼んだ。教え子たちが墓碑を建立し、現在でも命日には花や香華を供えられている。その後、各地から集まった教え子たちによって生誕祭の開催、記念碑の建立、伝記の出版などが行われた。台中市大甲区の文昌祠には「志賀哲太郎記念室」が設置されており、その功績は現在も顕彰されている。

また益城町と台中市大甲区との『友好交流協定』締結のきっかけとなった人物でもある。

- 明治4年 中村伝兵衛に四書五経の手習いを受ける。
- 明治5年 木山町の「志賀塾」に学ぶ。
- 明治16年 中西牛郎塾長の「神水義塾」にて普通学修行。
- 明治20年 東京法律学院（現・明治大学）入学、法律学を専攻。
- 明治24年 京都オリエンタルホールにて英語学修行。
- 明治29年 渡台。その後、台中県大甲鎮大甲公学校にて代用教員。